

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		児童生徒一人ひとりの可能性を引き出し、元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	①地域の関係機関・団体と協働して学習を進めている。 ②地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。 ③自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ④学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。
	ありたい教職員の姿	①特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ②地域の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ③地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校へ専門的なアドバイスを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ④教育環境をソフト・ハード面で整備し、児童・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。 ⑤ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<児童・生徒> ・健康で笑顔で、安心して学べること ・可能性を伸ばし、社会的に自立すること <保護者> ・児童・生徒が、健康で笑顔で、安全に学べること ・児童・生徒の進路が保障されること <地域の障がい児を持つ保護者> ・施設見学等の情報提供の機会があること ・教育相談の機会があること <地域の教職員> ・特別支援教育の研修が実施され、専門的知識が提供されること ・特別支援教育に関する相談の機関であること
----------------------------	--

		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<保護者> ・有意義な学校生活と進路保障 <福祉・医療機関> ・連携強化と情報共有 <地域の公立学校等> ・研修と専門的知識の提供、教育相談 <地区の企業等> ・就労に向けた連携	<保護者> ・教育活動への理解、支援と参画 <福祉・医療機関> ・卒業後も含めた切れ目のない支援・相談体制の充実 <地域の公立学校等> ・人事交流と本校への理解、協力 ・交流活動の充実 <地区の企業等> ・学校への理解、協力
(3) 前年度の学校関係者評価など		○(地域支援について) 支援学級に限らず、普通学級に在籍する支援を要する子への指導の在り方など特別支援教育の専門的な助言が必要な状況はあると推察される。地域の小中学校は、くろしお学園に相談することを躊躇しているのかもしれない。定期的な情報交換会を行うなどして気楽に相談できる関係性を築いていただけるとよい。 ○(副次籍の交流について) 本人・保護者の感想を相手校に共有し、ニーズや要望を踏まえて両校でよりよい内容を検討していけるとよい。 ○(情報発信について) 写真を載せたくない人への配慮は必要だが、ホームページは活動の様子がわかる写真が多いほうが見やすい。 ○(高等部卒業後の支援について) 一般就労した卒業生にはパラスポ等、障がい者のイベント情報が届きにくいのではないかと。何かできるとよい。	
(4) 現状と課題	教育活動	○交流の充実を図るため、交流先との情報共有や意見交換を進める必要がある。 ○学習指導要領を踏まえた適切な学習内容を計画的に配置し、児童生徒の実態や課題に応じた指導を行うため研修を進める必要がある。 ○進路情報や学校の様子など様々な機会を通じて容易に情報発信できる仕組みを整え、学校が保護者や地域の関係機関と良好な関係性を相互に築けるよう働きかける必要がある。	
	学校運営等	○児童生徒や保護者が相談できる機会を充実させるとともに、外部講師を活用した学習機会の充実を図り、児童生徒の教育的諸課題の早期発見と早期対応につなげていく必要がある。 ○さまざまな研修機会を通じて、学校に新たに導入された情報機器や校務支援システムなどの活用に向け、教員のスキルアップにつながる取り組みを進める必要がある。 ○地域の幼稚園や保育園、小中学校に向けて、高等部卒業後の進路希望に応じて必要とされる力や障がい特性についての理解などが深まっていくように働きかけを進め、高等学校との連携の在り方を検討する必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	①<個々のニーズに応じた授業の実施> 個々の特質を把握し、そのニーズを十分踏まえて「個別的教育支援計画」等を策定する。これらに基づき教育課程や学習計画を作成し、児童生徒の自立に向け、多様な生活学習の場を提供する。 ②<進路支援の充実に向けた取組> 「個別の移行支援計画」を策定し、地域、関係諸機関との連携を図りながら児童生徒の支援を継承する体制を確立するとともに、卒業後の進路選択肢の拡大に向けた取組と情報提供を行う。
学校運営等	①<専門性向上の取組> 教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識を持つとともに、1つ以

	上の分野(特質・疾病等)について、専門的な知識・技術を持ち、地域からの相談に応じられるようにする。また、センター的役割を果たすため、教材や図書室等資料を整備し、地域等への貸出しを行う。 ②<地域ネットワークの拡大> 地域の保・幼・小・中・高各学校、園や福祉関係施設、行政機関等との連携を強め、個人情報に配慮して情報共有を図る。また、紀南地域でセンター的機能を果たす本校との連携も深める。 ③<児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備> 児童生徒が安全に学校生活を送ることができる環境を整備する。 ④<情報提供による信頼の構築> 保護者や地域の「信頼」を確保し続けるために、さまざまな広報媒体を効果的に組み合わせた情報発信を行う。 ⑤<職場環境の整備> 教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、目標・目的を共有する。話し合いの場を設定し、業務内容の見直しや過重労働の削減などに取り組む。
--	--

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
個々のニーズに応じた授業の実施	【小学部】 体力の維持・向上と健康管理 ○活動指標 ・ベーシックタイムに参加して、体力の維持・向上を図る。 ・食環境を整備して、肥満度(指数)を維持する。 ・家庭や医療機関と連携し、児童の体調把握に努める。 ○成果指標 ・ベーシックタイムの参加率90%以上 ・肥満度(指数)の現状維持 ・対象児童の療育相談やリハビリに2回以上参加する。	【小学部】	◎
	【中学部】 朝のベーシックタイムの取組(学校周りのランニングや体育館での歩行訓練、車いす走行校訓練等)を通して生徒の体力向上を目指す。 ○活動指標 ・ベーシックタイムで生徒個々の周回数を毎回記録し、その増減を目安として、生徒各自が周回数のアップを目標とする。 ○成果指標 ・生徒各自が、出来る限り、継続的に走り、周回数(走行距離)が向上することを目指す。	【中学部】	◎

	【進路・教育支援部】 よりよい進路選択に向け、早期から進路を意識し、在学中から卒業後の生活について見通しを持って準備を進められるよう、全学部で教員・保護者への情報提供を行う。 ○活動指標 ・各学部の教員および保護者に向けて、高等部の進路支援や卒業後の生活に関する情報を提供する機会を増やす。 ○成果指標 ・PTAと連携して卒業後の生活を具体的にイメージできるような研修や活動を行うとともに、地域の福祉事業所の現状について理解を深め、話し合える機会を作る。 ・教職員に対し、卒業後の生活に必要な力や福祉事業所の様子について知ってもらえるような校内研修を行う。	【進路・教育支援部】	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性の向上の取組	【教務・研修部】 学習指導要領を意識した授業実践の推進を図る ○活動指標 ・自立活動の取り組みを充実させる。 ・指導案作成などを行い、授業を充実させる。 ・年度末にアンケートを行い、専門性について向上することができたか確認する。 ○成果指標 ・年度末アンケートにおいて、専門性の向上が図れたとする回答の割合 80%以上	【教務・研修部】	◎
地域ネットワークの拡大と充実	【進路・教育支援】 地域の幼稚園、保育園、小中学校や高等学校への巡回教育相談や夏季公開研修会等の実施を通し、小中学校や高等学校の教員の特別支援教育の理解と資質向上を図る。	【進路・教育支援】	

児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備	○活動目標 ・年度初めに地域の幼、保、小中学校、高等学校の障がいを持つ児童生徒や、特別支援学級の状況の把握。 ・きめ細やかな巡回教育相談の実施。 ・支援法、教材教具、進路相談等の情報提供。 ○成果目標 ・学年末に相談内容について振り返り、地域の課題を探り、来年度の研修のテーマを決める。 【生活支援部】 安全・安心に係わる児童生徒の満足度調査を実施し、課題を検討する。 ○活動目標 ・児童生徒への学校独自アンケートを実施。 ○成果目標 ・1回目のアンケート結果をふまえ、教育活動を修正できたか。 ・2回目のアンケート結果から、次年度に向けた課題の整理ができたか。 【学校全体】 自然災害等を想定した訓練や関係機関との連携を図り、学校防災に努める ○活動目標 ・年間を通じて訓練等の防災教育を実施し、地域の防災担当者と打ち合わせを実施する。 ○成果目標 ・訓練の実施回数、年3回以上 ・打合せの実施回数、年2回以上 地域の学校との交流を進め、様々な学習機会の充実を図る ○活動目標 ・居住地校との交流や副次的な籍への取り組みを進め、学校間交流を進める。 ○成果目標 ・希望する児童生徒の交流実施率100% ・交流実施回数1人3回以上	【生活支援】	※
情報提供による信頼の構築	ホームページによる情報提供や報道機関への資料提供を通じて、本校の教育活動を情報発信していく。 ○活動目標 ・ホームページの定期的な更新を行う。 ○成果目標 ・ホームページの更新月1回以上 ・報道機関への資料提供年5回以上		

職場環境の整備	教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を醸成する。 ○活動指標 ・原則として、毎月第2、第4金曜日を定時退校日とする。 ・会議は40分(16:10～16:50)以内の終了を目指す。 ・連絡事項はオンラインを活用する。 ・日曜日は出勤しない。 ○成果指標 ・定時退校日に定時退校できた職員の割合 80%以上 ・時間内に終了した会議の割合 80%以上 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 12 時間以内 ・月 45 時間を超える時間外労働者数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人 ・1人当たりの年間休暇取得日数16日以上 ・オフサイトミーティングを年1回以上実施する。 ・コンプライアンスミーティングを年3回実施する。 ・年度末の職員アンケートで満足度 80%以上		
改善課題 (年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
--------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)